



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2015

9月30日号

148
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

広 島



副会長 遊 佐 烈

夏休みを利用して以前から訪ねてみたかった広島にオートバイで出かけた。お盆の週でもあり高速道路も混むと想像しながら、早朝4時過ぎに福島を出発し、会津、新潟、富山、石川、福井を抜け京都舞鶴で一泊。翌朝も4時過ぎに宿を出発し高速で目指すは広島。昨日と同じく薄暗い時間帯から徐々に周りが明るくなるのは非常に気持ちが良い。日が昇るにつれ、今日も暑さがきびしい。広島に到着したのは午前9時半頃。駐車場探しが大変とは聞いていたので前日めばしい場所を選んでいたらやはり満車で断られた。別な駐車場で聞いてみると「自動車と同じ料金で良いのなら」、感謝しつつ駐車場の隅に停めさせて貰う。駐車場の方から「小学生のグループが話を聞いているあその場所が爆心地だよ」たまたま停めた場所の目の前が爆心地と聞き、慌ててガイドブックで確認。地上600mで炸裂との事。そこから少し進むと目の前に元安川が現れ、右側に原爆ドームが現れた。想像していたより小さな感じがする。暑い中、大勢の方々が説明文を見ながら頭を垂れる。外国人の方も多い。朽ち果てようとする建物は静かではあるが強いメッセージを私達に訴えかける。人間の残酷さと愚かな行為の代償を

原爆の子の像前でも家族連れがそれぞれに鐘をならし、手を合わせて黙とうし犠牲者を悼む。非常に暑い中、小学生が多いのに騒ぐ子がいない。この場所の雰囲気こそそうさせるのだろうか。原爆死没者慰霊碑の前に立ち、この悲劇を繰り返してはならないと祈る。ここからも原爆ドームが斜め前方見える。広島平和記念資料館に足を向けた。東館は現在工事中のため本館しか見学が出来ないが、大勢の人と一緒に展示されている物を見る。心に重く押し掛かる。人影の石の前、座っていた石段に人影のみを残し消え去った方を思うと胸が熱くなる。時間を気にしながら呉の大和ミュージアムにも足を運んだ。人間魚雷「回天」やゼロ戦も展示している。戦争の怖さ、追い詰められた当時の日本の狂気が感じられる。もっと時間をかけてゆっくり見て回りたかったが、高速道路の混み具合、お盆の時期という事で15時には広島を後にした。

我々放射線技師は医療用の撮影装置等を管理し、放射線を上手くコントロールしている。原爆に使用された放射線に関しては兵器であるために最大限の力を引き出そうとされ、その巨大な破壊力は放射線として悪の部分しか存在しない。今回の広島訪問により放射線技師の一人として、放射線の平和利用、更にALARAの原則を基に常に被ばく低減を念頭に置きたいと改めて思った。我々の務めは、なるべく少ない被ばくで情報量の多いデータを提出する事にある。しかし以前、放射線治療における過誤照射やRI過投与の事故・事件も新聞報道された。人間がする事であるからこそ二重三重のチェックが必要である。日本が原子爆弾による唯一の被爆国である事と自然災害により、原子力発電所が制御不能事態となり、放射性物質が放出され大勢の人々が住む場所を追われてしまった事も決して忘れず、同じ放射線を使う者として責任のある立場にいる事を常に意識し撮影や治療の仕事と共に、一般の方々への放射線の正しい知識普及のために貢献していく事も重要な仕事である事を認識して下さい。福島県診療放射線技師会の勉強会・研修会に積極的に参加し知識の向上に役立てて頂き、市民啓発活動の催しにも多数参加されますようお願い致します。

《セミナー便り》

・第3回 福島県放射線管理士セミナー開催

8月29日(土)、ポラリス保健看護学院(郡山市)におきまして、第3回福島県放射線管理士セミナーを開催し、県内外から23名の会員が参加しました。



今回は「平成26年度福島県原子力防災住民避難訓練を体験して～今までも、これからも必要なこと～」をメインテーマに、昨年実施されました県原子力防災住民避難訓練に参加しました体験を中心に報告していただきました。まずは放射線管理士部会の佐久間守雄部会長より訓練内容の概論説明があり、郡山市と田村市で行われたスクリーニング活動について太田西ノ内病院の笹川克博氏と常磐病院の安藤

茂樹氏よりそれぞれ体験報告がありました。特に郡山市安積公民館で行われた訓練では、会場作成から始まるというハプニング(?)があり、ある意味良い訓練になったのではないのでしょうか。田村市の訓練会場では避難住民200名

以上のスクリーニングを行いました。また田村市の別の訓練会場では医療中継拠点訓練が行われ、町立三春病院の佐藤政春氏より報告がありました。寝たきり者や避難時に負傷した方などへ医療処置を施したのち、病院へ紹介搬送する訓練であり、診療放射線技師は処置前のスクリーニングを担当しました。



特別講演では日立アロカメディカル(株)福島営業所長の中島寛茂先生をお招きし、原子力災害では必需品となりました各種サーベイメータの取扱い方法につきましてご講演していただきました。原子力災害が発生した際、避難者のスクリーニングを行いますが、GMサーベイメータの取り扱いを正しく理解しておく必要があります。講演では測定の実理からサーベイメータの設定方法について丁寧に解説していただきました。

机上演習では放射線検査の説明を行う際のポイントについて南東北がん陽子線治療センターの三木史行氏に解説していただきました。『放射線検査説明の手引き』の一部内容を参考例に挙げ、検査を受ける方に理解しやすい言葉で説明するよう心掛けることが重要です。また原発事故に伴いホールボディカウンタ測定を実施し、結果説明に従事する機会がありましたので、その体験報告も併せて発表していただきました。

最後に総合討論ではホールボディカウンタ測定の結果説明について会場からアドバイスが出るなど、活発な討論が行われセミナーは終了しました。

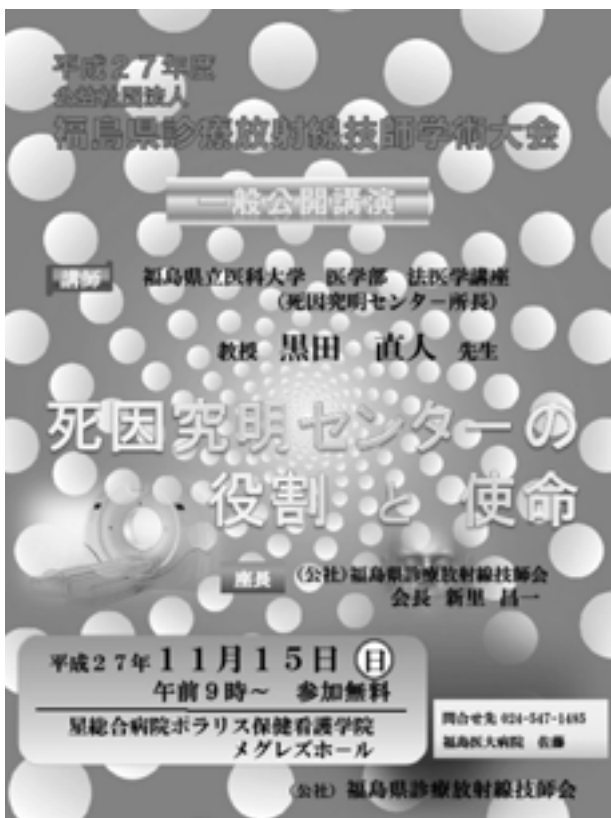
今後も福島県放射線管理士部会では、スクリーニングのサーベイヤーや被ばく相談員を養成するため活動内容を充実させていきたいと考えています。



(放射線管理士部会 事務局

田村私立都路診療所 菅野修一)

学術大会のポスターが発表されました。



木村名誉教授からご寄付

前法人時代に本会の顧問をお引受け戴いた福島県立医科大学名誉教授木村和衛先生から本会学術奨励資金として多額のご寄付申し出があり、理事会の承認を経て受領いたしました。

ありがとうございました。

県技師会からのお願い

毎年、会計の方が会費回収に対して大変苦勞をしています。会費の納入は、定款にも9月末までと記載されています。9月末までには、必ず会費納入をお願いします。技師会の活動は、皆さんの会費で賄われています。県のみの方にも、コンビニ支払いが出来るように致しました。

毎年、会計担当者に大きな負担があり、会計監査等でも問題になっています。そのため、今年度からは県学術大会の発表者・共同研究者、学術奨励賞や県外学術発表助成金等の対象者は、9月末の納入を基準とします。何卒、ご協力をお願い致します。(会長 新里昌一)

地区だより

県南地区

「県南地区サマーセミナー」開催

平成27年7月25日(土)、平成27年度 県南地区サマーセミナーが、ビッグアイにて開催され、会員37名・非会員18名が参加しました。講演内容は、「最近のトピックス」と題して、各メーカーより幅広いモダリティに関する最新の情報提供がありました。



今後の活動は、10月4日(日)に、健康・福祉フェスティバル郡山2015 (カルチャーパーク)。10月25日(日)に、ピンクリボンin郡山 (ビックパレット) に参加します。多くの方にも、参加をお願い致します。(国分)

浜通地区

「相双地区での非接続型アナライザーの巡回」

7月になり精度管理委員会から相双地区にPiranhaが貸し出されました。今年度から半年ごとに使用できるようです。7月は相双地区では以下の順番で使用予定です。

平成27年度 7月 病院巡回順

相馬	公立相馬総合病院 相馬中央病院 鹿島厚生病院
南相馬	南相馬総合病院 小野田病院 大町病院 渡辺クリニック
新地	雲雀ヶ丘病院 渡辺病院 (公立相馬総合病院に戻る)



たが、事情があり次回の貸し出しの時に使用する施設もありました。8月にはいわき地区に送らなければならないのですこし慌ただしく使用した施設もありました。次回と来年度の貸し出しの時期を考え有意義に精度管理ができるように考えたいです。(大井)

「X線アナライザー (Piranha) の測定」 いわき支部で開催

8月はいわき地区のX線アナライザー (Piranha) を使用した線量測定で、福島労災病院も8月26日に測定を行いました。

今年一般撮影機器が更新され新しい機器での測定だったため、以前との比較はできませんが、今回参加した当院技師も実際に手で触り測定することで大変勉強になったと思います。

次回、2月がまた、いわき地区が測定月なので次回は一般機器比較ができると楽しみにしています。



9月に浜地区で2つの催しが開催されます。

- 1、9月12日いわき医師会主催、診療放射線技師会浜通り地区協議会などが後援する

「おなかの急病についての講演会」

- 2、9月19日浜通り地区協議会夏期研修会
みなさま多数の参加おねがいいたします。(菅原)

会津地区

「第87回会津画像研究会」開催

平成27年8月20日(木)に画像研究会が下記の内容で開催されました。

場所 山鹿クリニック2F カンファレンス室

演題 1. 「CT、MRIにおける造影剤のQA」

講師：第一三共株式会社

2. 「Full View FD搭載 外科イメージ

ソリューションCios Alpha iSのご紹介」

講師：シーメンス・ジャパン株式会社 津野允彦氏

参加人数は18人でした。第一三共様には造影剤の漏れたときの対処法や1人の患者に対してCT、MRIの造影剤を同じ日時に使う際の注意点など、日頃自分たちが疑問に思っている事を詳しく教えていただきました。

シーメンスの津野允彦氏にはフルビューFDテクノロジーを搭載した最新の外科用イメージについて詳しく講

義していただきました。この装置によって詳細な血管像や微小骨片の描写から腰椎側面像まで高画質の画像が得られるそうです。(浅川)

県北地区

「学術講演会 (画像診断・病院連携懇話会)」開催
H27年7月2日ホテルサンルートプラザ福島にて学術講演会 (画像診断・病院連携懇話会) が開催されました。はじめに学術情報として第一三共より「心原性脳塞栓症に対するリクシアナの効果について」の情報提供があり、続いて一般演題では座長を大原綜合病院 森谷浩史先生が務め、

- ・高血圧にもCT、MRI：大原病院 中川学先生
- ・腹部CT解剖 (その4) 各臓器の見つけ方と正常か否かの判断方法：福島赤十字病院 菊田学先生
- ・AIDR 3D導入による臨床CT検査の被ばく低減効果：大原病院 森谷浩史先生の順に発表があり、それぞれとても勉強になる内容でした。

特別講演では座長を福島県立医科大学名誉教授 穴戸文男先生が務め「3T、MRI検査の現状 ~特徴と実際~」と題して北福島医療センター 丹治一先生の講演があり、最新3T MRIの特徴を聞くことができ、その利点の大きさを感じました。(安藤)



編集後記

夏の暑さも落ち着き、一気に秋が近づいてきました、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて今年の夏は特別暑い夏だったのでしょうか、私の働く施設では空調機能が働かず、装置が検査中に暑さによって止まってしまう事態になりました。応急の対応で四苦八苦しているうちに暑さは和らいだのですが 来年に向けて対策を施さなければなりません。(安藤)